

覆土用ブロック

シンプルベース

意匠登録



共和コンクリート工業株式会社

シンプルベースは

特長

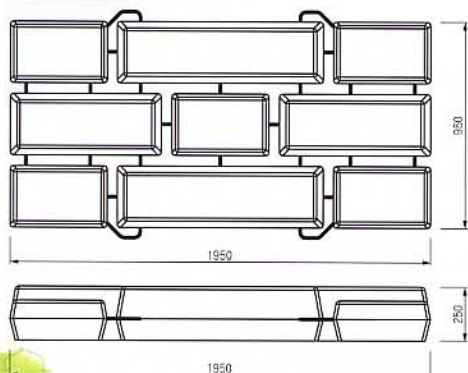
- 製品は大型(2㎡/個)で結束が簡単に行えるので施工は容易です。
- 製品上下間の隙間を確保できるように連結鋼線を飛び出させています。
- 被覆土が地盤と連続するので、植物には十分な水分が補給され根も定着します。
- 製品は3種類のブロック固体を鋼線で一体化し、金具で製品相互を連結するため屈とう性に富みます。

用途

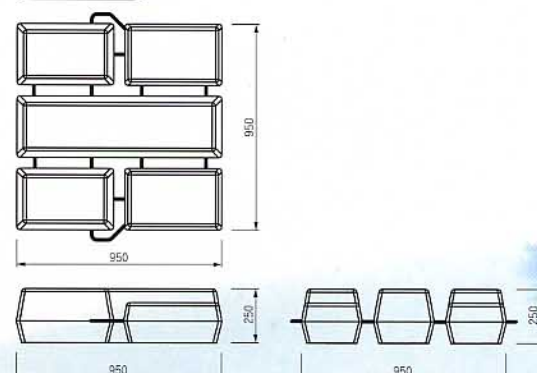
災害復旧・河川・ダム・遊水池などの護岸

規格寸法図

A形



B形



規格諸元

呼び名	主要寸法 (mm)	体 積 (m³)	参考質量	
			kg/個	kg/m²
A形	1950×950×250	0.3066	705	352
B形	950×950×250	0.1539	353	—



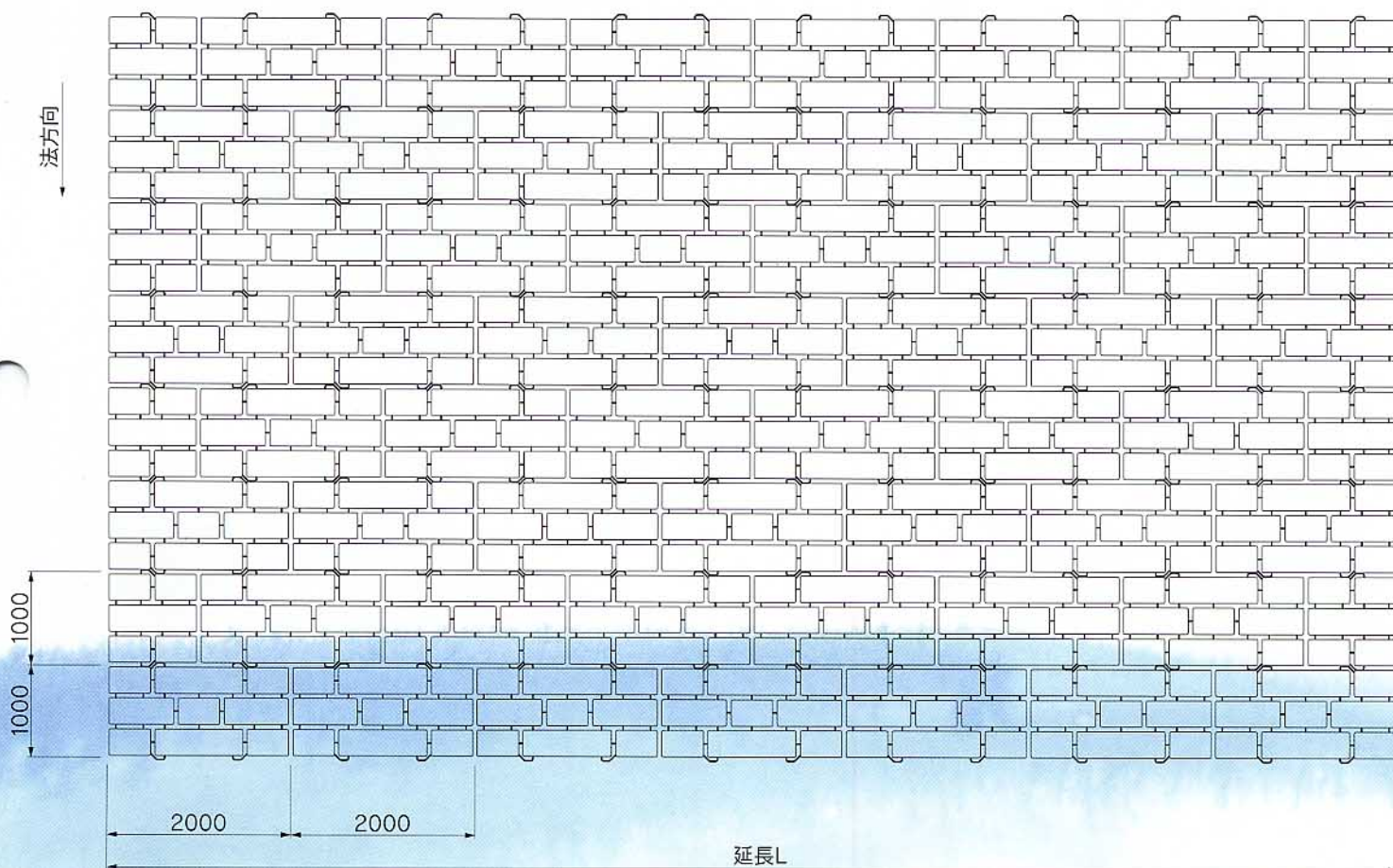
「護岸ブロックの水理特性試験法マニュアル」に基づいた試験を財団法人土木研究センターに委託し、水理特性値証明書をいただいています。

植生復元のための覆土工法で、環境

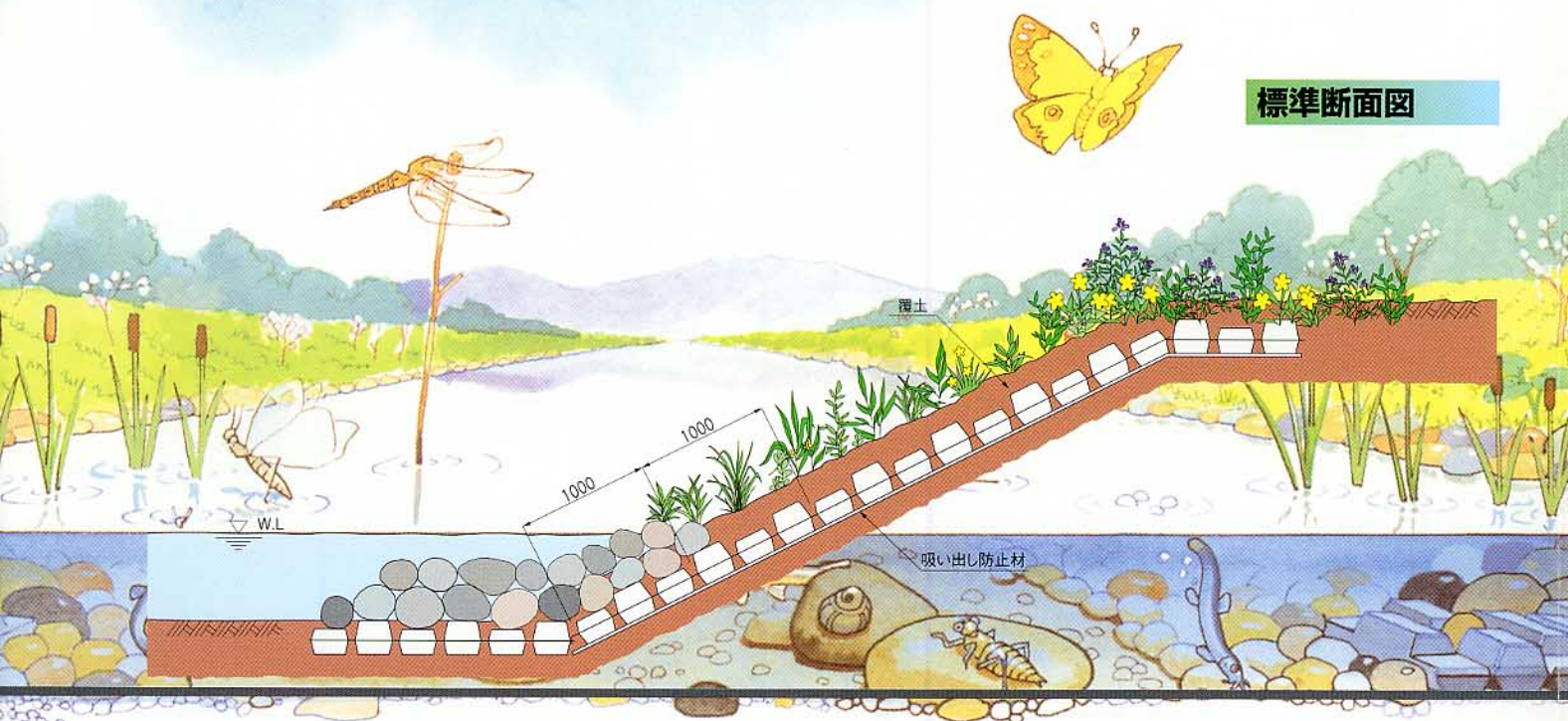
標準展開図

延長方向

法方向

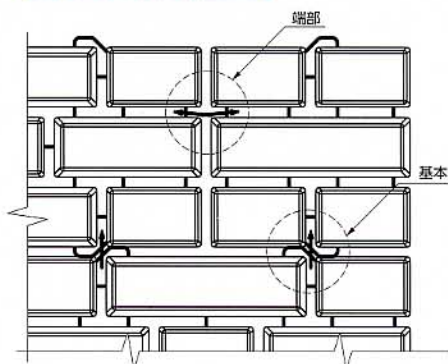


標準断面図

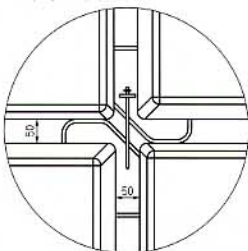


境の保全に配慮できます。

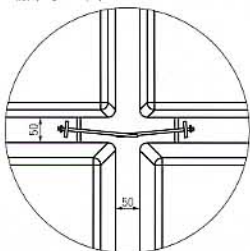
連結詳細図



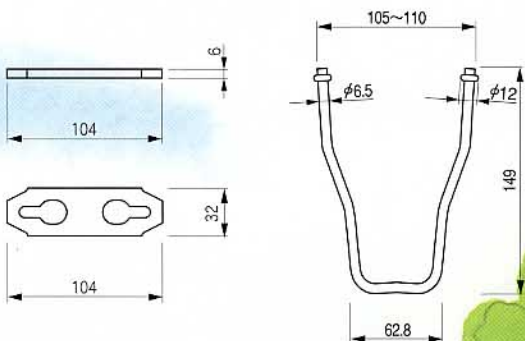
基本 拡大図



端部 拡大図

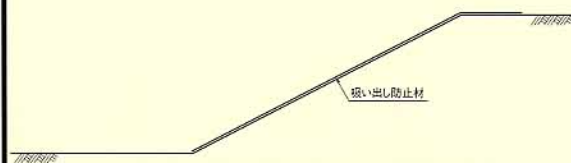


●連結金具 (溶融亜鉛アルミニウムめっき)
連結金具の総質量は0.20kg/組



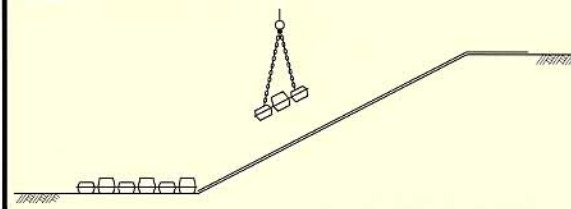
1

法面を所定の勾配に整地します。
また、必要に応じて吸い出し防止材、あるいは
裏込材を施工します。



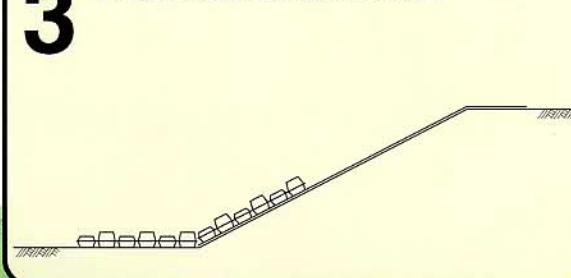
2

吊り上げ金具をブロックに装着し、
クレーンによりブロックを法勾配に合わせて
吊り上げ布設します。



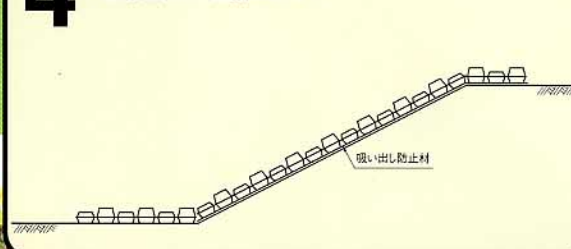
3

同様の作業を順次繰り返し行います。



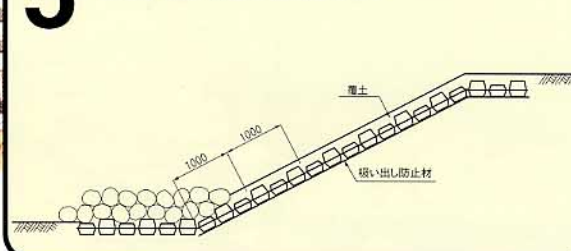
4

ブロックを所定数配列後、相互のブロックを
連結金具で連結します。



5

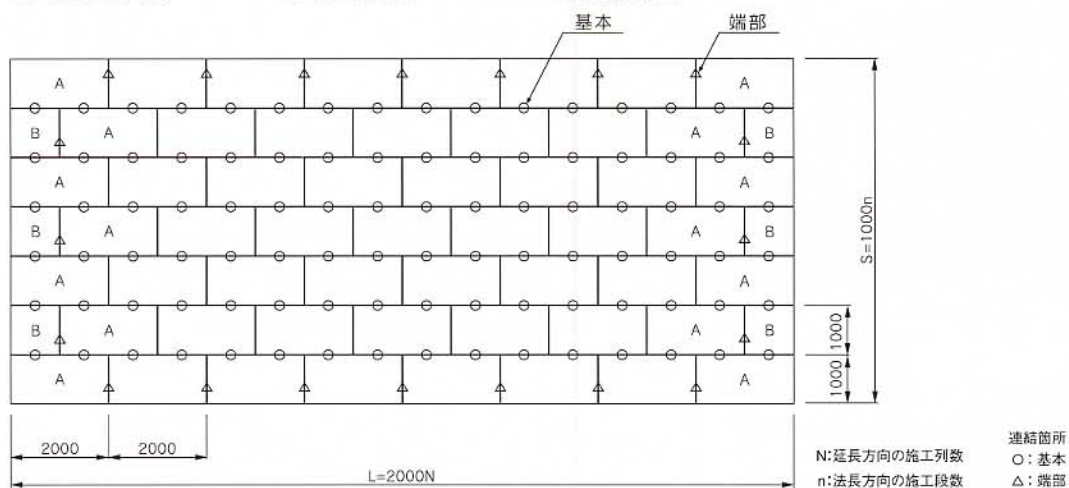
必要に応じて、ブロック空隙部に覆土、
あるいは砂利等を充填します。



●数量算出式

区 分		施工段数が奇数の場合	施工段数が偶数の場合
ブロック	A形	$N_A = \frac{L}{2} \times S - \frac{(S-1)}{2}$	$N_A = \frac{L}{2} \times S - \frac{S}{2}$
	B形	$N_B = S - 1$	$N_B = S$
連結金具		$N_s = (S+L-3) \times 2 + L \times (S-1)$	
客 土 量		$V_s = N_A \times 0.193 + N_B \times 0.096$	

N_A : A形のブロック数(個) N_B : B形のブロック数(個) L : 施工延長(m)
 N_s : 連結金具(組) V_s : 客土量(m^3) S : 法覆長(m)



●数量算出例 (延長50m当たり)

区 分		単位	施工延長 50.0m										
法 覆 長		m	5.0	6.0	7.0	8.0	9.0	10.0	11.0	12.0	13.0	14.0	15.0
施 工 面 積		m^2	250.0	300.0	350.0	400.0	450.0	500.0	550.0	600.0	650.0	700.0	750.0
ブロック	A 形	個	123	147	172	196	221	245	270	294	319	343	368
	B 形	個	4	6	6	8	8	10	10	12	12	14	14
連 結 金 具		組	304	356	408	460	512	564	616	668	720	772	824
客 土 量		m^3	24.1	29.0	33.8	38.6	43.4	48.3	53.1	57.9	62.7	67.5	72.4

※布設はA形からとしています。

